

# 気仙町地区 防災意識に関するアンケート 主な調査結果について

岩手県立大学総合政策学部牛山研究室  
岩手県大船渡地方振興局

去る2月に実施させていただいた「防災意識に関するアンケート」に際しては、非常に多くのおみなさまにご協力をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、1016件の貴重なご回答を伺うことができました。

ここでは、結果の中から特に重要と思われるものをご紹介します。なお、もう少し細かな集計結果につきましては、当研究室ホームページ(<http://disaster-i.net/>)からご覧いただくことができます。

## 自然災害の危険性に対する考え方

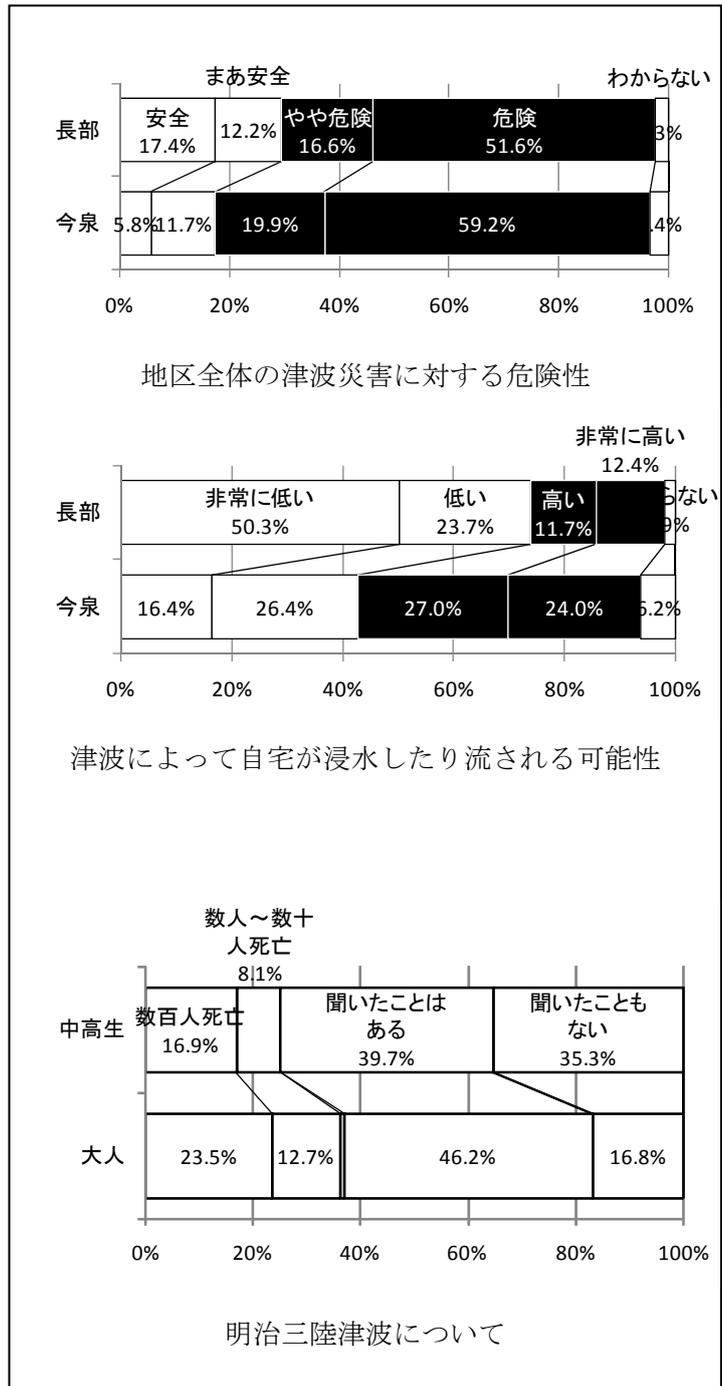
地区全体の自然災害に対する危険性については、6～8割程度の方が、危険性がある（「危険」、「やや危険」という回答）と回答されました。一方、自宅が被災する可能性があると考える人（「高い」、「非常に高い」という回答）は2～4割程度でした。

津波に関してみると、今泉地区は集落のある場所のほとんどが津波によって浸水被害を受ける可能性があると考えられています。また、長部地区でも、湊、双六、要谷、福伏地区では、標高10mくらいのところまで津波がくる可能性があると考えられています。両地区とも、決して津波による被害と無縁ではありません。岩手県から公表されている「岩手県津波浸水予測図」は岩手県ホームページなどからも参照できます。身近な地域の災害の可能性について、再度確認されるといいのではないのでしょうか。

また、気仙地区では洪水、土砂災害の可能性もありますし、津波の前に来る地震で被害を受けることも考えられます。津波以外の災害に対して注意することも重要です。

## 過去の災害に対するイメージ

陸前高田市は、明治以降だけでも明治三陸津波(明治29年、死者817名)、昭和三陸津波(昭和8年、死者106名)、チリ地震津波(昭和35年、死者8名)という、3回の大きな津波災害に見舞われています。チリ地震津波を



「聞いたこともない」という回答は3%程度でしたが、古い災害ほど「聞いたこともない」という回答が増え、明治三陸津波では全体の2割程度の人が「聞いたこともない」と回答されました。年代で分けてみますと、中高生の方が、過去の津波に対して具体的なイメージを持たれていないようです。

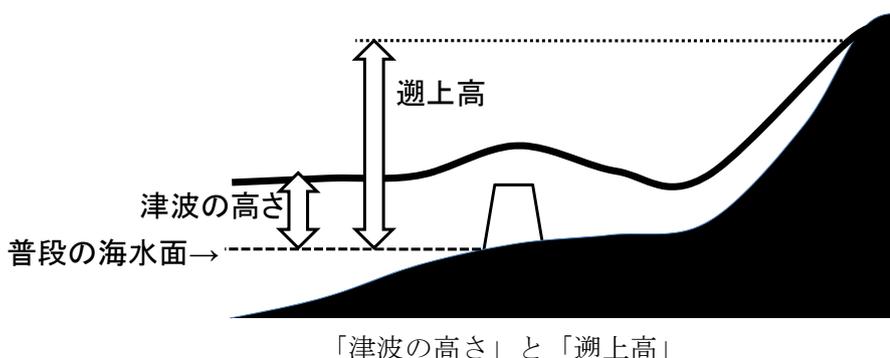
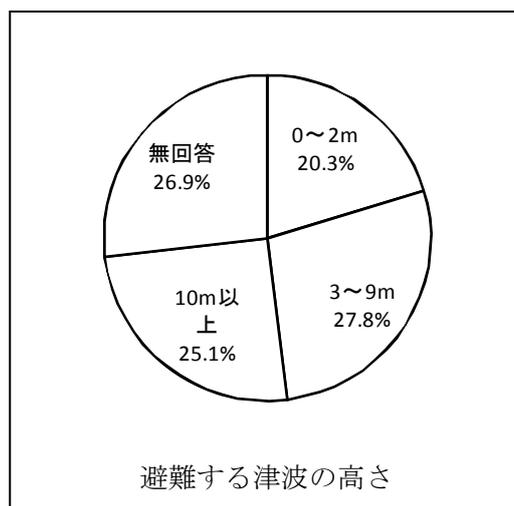
災害にはいろいろな姿があり、特定の事例だけを教訓とすることはできません。しかし、過去にその地域でどのような災害が起こったかを知ることは、災害対策を考える上での第一歩です。いろいろな機会を利用して、過去の災害について学んでみてはいかがでしょうか。

### 「予想される津波の高さは3m」で「大津波」

だいたい何メートルくらいの津波が予想されたら避難するかについて質問したところ、半数以上の方が、3m以上の大きな値を回答されました。気象庁から発表される津波予報では、0.5m程度の場合が「津波注意報」、1~2mの時は「津波警報」、3m以上の時は「津波警報(大津波)」として発表されます。津波予報で3m以上の値が発表されるときは、相当規模の大きな津波が発生しつつある時とっていいでしょう。

津波予報として発表される「津波の高さ」は、海岸付近における、津波によって盛り上がった水面の高さを指します。津波が陸上に侵入し、最も高いところまで到達した地点の標高を「遡上高」(そじょうだか)と言います。三陸地方のように、海岸からすぐに山になるような地形の場合、斜面に沿って津波が「遡上」し、「遡上高」が本来の「津波の高さ」よりかなり高くなる場合があります。「××津波の時は30mの所まで津波が来た」などと伝えられますが、普通これは「遡上高」を指しており、30mの壁のような津波が来たわけではありません。したがって、「ここは標高5mだから、2mの津波が来ても大丈夫」と安心はできません。

現在の津波予報では、「標高×メートルまで遡上する」といった情報は出せません。特に、津波浸水予測図で津波の到達が予想されている範囲では、安全のため余裕を持った避難行動をとることが重要でしょう。



今回の調査についてのお問い合わせ先

岩手県立大学総合政策学部牛山研究室 Tel & Fax 019-694-2722 Mail ushiyama@disaster-i.net